



太陽がなくなったら、地球はどうなるの

すべての生物は死んでしまう

太陽があるので、地球は太陽の光を受けて、適度の温度を保ち、生物が生きていくことができる環境になっています。

もし、太陽がなくなったら、地球が真っ暗になるのはもとより、気温が急に下がり、地球の約3分の2をしめる海の水や、そのほか地上にある水は、全部こおってしまいます。このような寒さの中では、人間をはじめ、すべての動物や植物は、死んでしまいます。地球上で、生物が生きていくことができるのは、太陽があるからです。

約50億年後、地球は太陽に焼きつくされる

太陽も、宇宙にある星の一つです。星には、じゅ命があります。太陽は、あと50億年ぐらいたつと、じゅ命がくるといわれています。

そのころになると、太陽はぼう張して、今の太陽の数百倍以上になり、金星をのみこんで、金星のき道よりも大きくなって、地球を焼きつくしてしまいます。

そのあと、太陽は、地球ぐらいの大きさの、青白い星になってしまう、といわれています。しかし、あと50億年も先のことなので、心配することはありません。

(監修・国司 真)

